

点検の不動産利活用

一般財団法人日本不動産研究所

第10回

前橋市における近年の人口動態は、07(平成19年)年以降、自然減(死亡数)出生数)の状態が継続し、地域の活力維持に大きな課題が突きつけられている。2060年の推計人口は現在の約3分の2まで減少し、高齢化率は約40%まで上昇することが見込まれている。

前橋市は、人口減少問題の解決を目指し策定した「県都まえばし創生プラン」において、東京圏からの移住者と地域住民が、共に生きがいを持って、生涯にわたり活躍できる新たな地域づくりである「前橋版生涯活躍のまち(CCRC)」を基本事業の一つとした。

健康医療に強み

CCRCは「Continuing Care Retirement Community」の略で「直訳すると」継続的なケア付きの高齢者たちの共同体である。仕事をリタイアした人が第2の人生を健康的に楽しむ街としてアメリカで生まれた概念であり、元気なうちに地方に移住し、必要なときに医療と介護のケ

前橋版「生涯活躍のまち」へ

進むCCRC整備

組みである。前橋市は人口10万人当たりの医師数が全国平均の2倍近くあり、健康医療都市として前橋市の強みを生かし、安心・健康・快適な生活環境を実現し、医療・介護負担の抑制を目指すとしている。

日赤跡地を整備

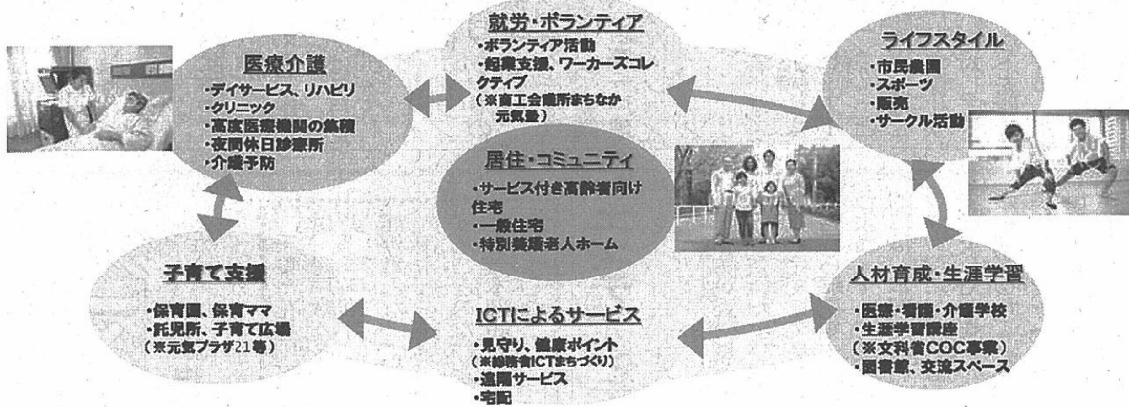
このような基本方針の下、18(平成30)年6月に前橋市市街地近郊から郊外部へと移転した前橋赤十字病院跡地約3万8000㎡の敷地に、先駆的モデルとして「日赤跡地生涯活躍のまち(CCRC)」を整備することとし、19(令和元)年12月に優先交渉権者との事業契約が締結された。計画によるとコンセプトは「全世代活躍みんなが主役のまちづくり」であり、分譲戸建て住宅18戸、多世代型賃貸住宅30戸のほか、夜間急病診療所、介護付き有料老人ホーム、認定こども園、福祉作業所、スーパーマーケット、薬局、フィットネス、地域コミュニティスペース等の整備が行われ、22(令和4)年度に供用開始となる見込みである。

途としては、区画割りの上で住宅団地になることが考えられる。しかし、前橋市の中心医療として長らく地域社会に貢献していた日赤跡地が住宅団地に変わることは、周辺の地域住民にとってはやや不満の残る内容と思われる。このような問題を抱える日赤跡地において前橋版CCRCの先駆的モデルとしてリスタートを切れたことは有意義なことと思う。人口減少問題は、前橋市に限らず全国の多くの地方に共通する課題である。前橋版CCRCはまだ始まったばかりで、今後コンセプト通りの結果が得られるかどうかは未知数であるが、全国をリードする結果を残

政府は、高齢者の地方移住を促すことで首都圏の人口集中の緩和と地方の活性化を目指す「日本版CCRC構想」を15(平成27)年に打ち出し、これを受けての取り

日赤跡地は都市計画法上の用途地域が第一種住居地域で、国道50号背後の住宅地域に位置している。元々、商業施設の立地が難しい地域であり、日赤跡地の通常の利用用

今後コンセプト通りの結果が得られるかどうかは未知数であるが、全国をリードする結果を残



前橋版CCRCのイメージ (出典・市の前橋版CCRC構想に係る基礎調査業務報告書)